

GIFA ふれんどしっぷ

Gujō Hachiman International Friendship Association

vol.13

発行

郡上八幡国際友好協会
事務局

郡上郡八幡町総合政策課内

☎0575-67-1122

主な事業

GIFA 平成十二年度



五月二十二日開催された郡上八幡国際友好協会の総会で本年度の事業が可決されました。

○ふれんどしっぷの発行
○フイリピン理科教育代表

○団の受入
○岐阜大学夏期短期留学生の受入

○アセアン教育行政代表団の受入
○ドイツ勤労青年代表団の受入

○国際理解学習会の開催
○世界の料理を楽しむ会
○やさしい英会話教室
○ブラスの里
○郡上八幡

このほか「ホームステイ」改訂版の発行や、協会員への各種情報案内などにも力を入れていくことが承認されました。

今回、初めてホストファミリーに参加させて頂きました。最初はどうかと不安と緊張の連続でしたが、とても楽しいひとときを過ごさせて頂き、喜んでおります。

アンナ・カーリンはとても陽気で、「ダイジョウブ!!」が口ぐせでした。

少し複雑な会話になると、日本語が理解できない様子でした。それで私達家族は、身ぶり手ぶりで話してみたり、英単語を並べてみたり、最終的には和英辞典を片手に会話をしました。

話の内容がだいたいわかると、「ダイジョウブ!!」と言って私達を助けてくれました。わからないかと言って会話を控えてしま

「ダイジョウブ!! ダイジョウブ!!」

～初めてのホストファミリー体験～

西乙原 渡 辺

うのではなく、積極的に話ができただけは本当にアンナ・カーリンのおかげです。たくさんさんの会話の中からアンナ・カーリンについて感じたことは、親

さからすぐ自立しているという事です。親さんもアンナ・カーリンを信頼していて、ちゃんと子離れができている。そんな感じを受けました。お互いの人格をちゃんと尊重しているのだと感じました。

愛情と信頼関係からなりたっている家族だからこそだと思えます。

現在の私達日本人が学ばなければならぬ点がたくさんあるように思いました。

短い期間でしたが、本当に貴重な体験を与えて下さり、ありがとうございました。

人から人へ

アセアン混成教育行政代表団を迎えて

八幡中学校長 山下 恭 郎

国際協力事業団(JICA)が「人から人へ、心のふれあいひろげたい」、そんな願いのもとに推進している青年招へい事業の一環として、七月五日から十二日にかけて、「アセアン混成教育行政代表団(二十六名)」が岐阜県を訪れました。この岐阜県訪問の八日間のプログラムのひとつとして、七月十一日午前八幡中学校訪問が計画され、私たち八幡中学校生徒職員ともどもにお迎えを致しました。彼らの日本滞在一カ月のメニューの中で唯一の「中学校訪問」のため、八幡中学校の印象がそのまま日本の中学校という認識につながることを考えると、大きな責任が伴った受け入れとなりました。しかし、八幡中学校ののびのびとした生徒たち・明るく屈託のない生徒たち・素直で物怖じしない生徒たちの学習の様子

や姿に触れてもらうことが、日本の中学校教育の理解につながれると思うと責任とともに光栄でもあり、学校あげてお迎えいたしました。

八幡中学校の施設設備の參觀とともに全ての授業を公開し見ていただきました。英語の授業では、代表者のあいさつや自己紹介などを通して生徒たちとの交流もしていただきました。音楽の授業では「上を向いて歩こう」の合唱を通して、予定の時間を過ぎてもなかなか終わることなく交流が続きしました。

プログラム後半の意見交流では、生徒たちの素直さや明るさとともに楽しい交流ができたことなどの感想に続いて、教育行政のこと・教育内容のこと・家庭のこと・通学のこと・教科書のこと・教師のことなど活発な質問や意見が出されました。

二十六名の代表団はインドネシア五名・マレーシア五名・フィリピン五名・タイ五名・ラオス二名・ヴェトナム二名・カンボディア二名という構成で、それぞれが教育という分野での自国の国づくりという大きな使命を担った教育行政にたずさわる若者たちです。

彼らの質問する言葉や表情には、自分たちがそれぞれの国で、教育行政のスタッフとして直面している課題に対する熱い思いが溢れていました。アセアン諸国の未来が、この若者たちにかかっていることを思うと、彼らの眼差しに、言い知れぬ感動すら覚えました。

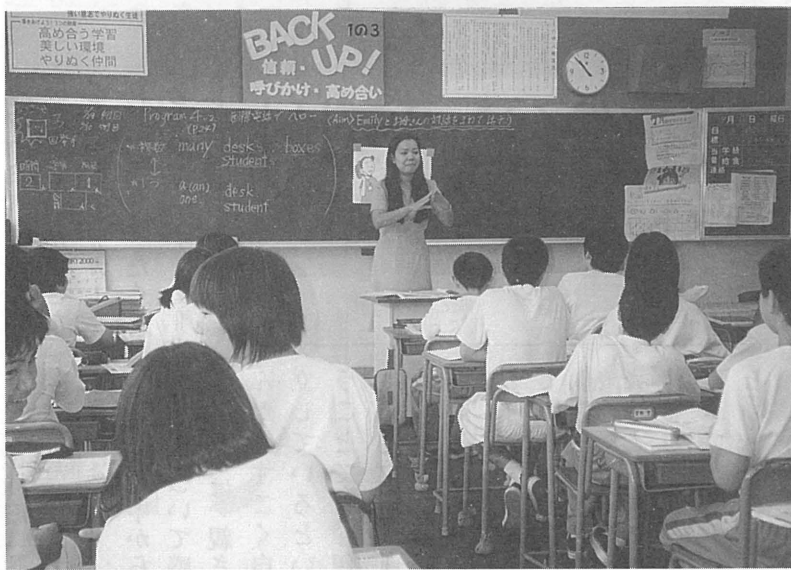
そんな彼らと言葉を交わした生徒たちにもきくと彼らの熱い思いが伝わり、理解や友情が生れるようになっただろうと確信しました。まさにJICAの「人から人へ、心の

ふれあい広げたい」という願いが具現されていくのだと思います。

今、国際理解教育の必要が叫ばれるようになってきています。インターネット等を通して知識としての理解は格段と進んできていますが、本物の知識は、そして理解は、目で見て、手で触れて、耳で聞き、足で歩いて、肌で感じてこそ得られるものだと思います。そうした体験をすることが「ふるさと郡上八幡」の未来を創造していく原動力になることを確信しています。

生徒たちにもそんな海外研修の機会を与えたいと、今回のアセアンの若者たちの姿を通して強く感じました。

二十六名の彼らを送り出すとき、一人一人の若者と交わした握手のぬくもりが、いままなお、彼らの熱い情熱とともに消えることなく私の手のひらに残っています。わずかな時間でのふれあいでしたが、こうした機会を与えていただき「郡上八幡国際友好協会」の皆様には、感謝いたしますとともに、厚くお礼申し上げます。有難うございました。



アセアンの人たちと 交流してみて

八幡中二年 田中智子

私は、あんなに長い間外国の人達と会話をしたのは初めてでした。肌を布でかくしている人や、肌が真っ黒の人など見た目は少し怖そうだと思っていました。

でも会話をしてみると私達にわかりやすいように親切に話してくれました。「何歳ですか。」と聞かれた時、英語で十四歳と答えました。でもはつきり伝わらなくて、「フオーティーン? フォーティ?」と聞かれ、英語でいろいろ伝えることがはけっこう難しいと思いました。こういう場面ではジェスチャーを使えるといいと思います。日常の会話では自然に使っているけど、英語を話そうとするとできないとわかりました。また、服装などをを見て日本とは文化がすごく違うなあと感じました。

この機会にめぐりあえてとて

もしい経験ができたと思いました。

八幡中二年 多田奈純

英語の授業の時に、アセアンの人達が来ました。その人達には、変わった服装の人、また色が黒い人などがいました。やっぱり日本とはちがっていろいろな人がいるなあと思いました。その何人かの人としゃべった時、あまりしゃべれなかったけど言っていることは少し分かりました。しゃべった人達はみんな明るく、積極的に話しかけてくれてうれしかったです。

日本語を少ししゃべれる人もいました。また、クイズをして答えが当たると、その国のお土産などをくれました。私は何ももらえませんでした。でも、いろいろとしゃべれて楽しかったし、他の国のことを少し知ることができました。

ふだんではできない体験ができて、とてもよかったと思いました。これからは、国際社会なので、もっと英語を勉強して話したいと思いました。

白いキャンパスに挑戦!

松浦裕之

驚いて下さい!! 初めて筆を握った子達が、実に素晴らしい感性を見せてくれるのです。日本の習字と違い、筆は驚掴みにして(筆のコシの部分を用いると力強い線が描けるから)体を大きく動かして、自分の一番好きな言葉を真剣な表情で描いてゆきます。

僕は書き順を教えるだけです。まずは白い半紙に練習、そして一番良い字を色紙に...

元気一杯の字を書く子や繊細な字を書く子、自分の一番好きな言葉のイメージを思い思いに白のキャンパス(半紙)にぶつけてゆきます。一心描の世界

最後に、前もって僕の感性で描いたその子達の一番好きな言葉の色紙をプレゼントして皆で一緒に記念写真を撮って終了です。

わずか2時間程の流れですが、実に活き活きとして、文字を描く事を通してその人の心にふれあえる。友達になれる。ありがとう!

岐大の先生、生徒。そしていつも手伝ってくれるGIFAのスタッフの人達、本当にありがとうございました。

THANK YOU VERY MUCH FOR YOUR KINDNESS



やさしい英会話教室に参加して



講師 ラナMケネリー・アンMバーン

参加者 25名

6月19日から毎週月曜日 5回開催



Y・T (男性)

毎年夏に開講の当教室。誰もが受講したいがちよつとはずかしがりやの郡上人。

女性がやや多いせいか花園の中に居る様な気分です。女の先生は美人で明るい。男の先生はトンチが良くCOOL。主催者で進行係の谷口さん辻さんは頭が良く無駄がない。

こんな中でのレッスンは経験者でそうでない方達の能力に合わせて進められます。つい未熟な私でさえ陽気になって、積極的に会話の中に入り、日本語なしでの総あたり戦のごとく生徒みんなど英会話します。もう時間です。の言葉にもっとやりたそうな生徒達の姿が印象的でした。せっかく勉強した言葉を忘れない様に、家庭仕事場、あらゆる所で英語に興味のある方に相手してもらいます。妻も良き理



解者でグチも言わずに耳を傾けてくれます。今後、新しいお友達にお逢い出来るのを楽しみにしています。国際友好協会、教育委員会、八幡英会話サークルの皆様には感謝致します。

M・K (二十才女性)

今回初めて参加しました。第一回目、高校を卒業して以来英語と縁がなかった私としては、緊張と不安で一杯でした。過去の記憶を思い出しながら、頭の中で英単語と日本語がぐるぐると回って全然言葉に出なかったことを憶えています。でもテキストの練習を行いながら徐々に多くの人との交流ができました。

趣味の話題から地元の話題まですべて英語で、というわけにもいかず、ジェスチャーと単語だけでしたが会話話が成立した時はとても嬉しかったです。

気がつけば、毎週行くことが楽しみのになり、英語ができない私も、少しは生の英語に親しむことができたように感じます。

気楽に英語に親しみ、来年も是非参加したいと思っています。これを機会にもっと英語を話せるようになりたいと願っています。

